

自校教育科目「法政学への招待」一期生の成果

今年度後期に市ヶ谷文系学部を対象に開講した自校教育科目「法政学への招待」では、最終回に「法政大学と私たちの未来を考えよう」と題するグループワークを実施しました。

今後 10 年以内に法政大学に実現してほしいことについて、学生たちが総長を前にそれぞれの提案についてプレゼンテーションを行いました。(詳しくは[こちら](#)をご覧ください。)

「法政学」一期生の期待をきちんと伝えてほしい、という受講生の要望を受け、このワークを受けた学生のリアクションペーパーとして提出されたワークの成果、およびそれをふまえて出題された、本科目の単位認定試験「法政学検定」の設問「この科目を通じて考えてきた本学の精神をふまえた各自の将来構想」から、力作を抜粋して、その学びの成果、将来への意欲、法政大学の未来への期待をお伝えします。(詳しくは[こちら](#)をご覧ください。)

観念的に「自由と進歩」を標榜するだけでなく、社会をきちんとみつめ、それぞれが地道にできることをしっかりやっていきたいという意欲、またそのために目の前の学びに向かおうとする意気込みが溢れるそれぞれのコメントは開講初年度にふさわしい成果といえるでしょう。

科目担当者も「学生たちがこんなにもさまざまなアイデアと熱意をもって教育の改善を考えてくれていることに感動しました。とくに授業をひたすら聞くだけでなく、積極的、能動的に授業に参加したいという思いを教員側はきちんと受けとめない。学生たちがそれで「モチベーション」が上がるという、これを生かさない手はありません」と教員側への刺激として受けとめています。

「法政学への招待」は、学生と教員が一緒になって本学の新たな伝統を築き上げてゆく大きなきっかけとして、来年度のさらなる発展をご期待ください。

(「法政学への招待」科目副責任者 小林ふみ子：文学部准教授)